

北海之光

5月号 北海道教区報

どのような道を歩むときにも主を知れ
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる

箴言3章6節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴



「エルサレムからガザに下る道」

札幌聖ミカエル教会牧師

函館聖ヨハネ教会管理牧師

今金インマヌエル教会管理牧師

司祭 ノア 上 平 更

イスラエルとガザ地区での戦いが続いている。

歴史的にも近隣諸国の戦いに巻き込まれ、自らも争いの種を蒔き戦火に身を投じてきたこの地域が果たして今でも神が示された約束の地、乳と蜜の流れる地と呼べるのでしょうか。

ガザという地名は新約聖書において使徒言行録にあるエチオピアの宦官の回心物語の始めに一度だけ登場します。ルカの記録するパウロの回心の前に書かれている異邦人の回心エピソードの一つです。

主の天使が、馬車に乗って国へ帰る途中の宦官の元へ使徒フィリポを遣わされます。そして彼の読むイザヤ書の意味を解き明かし、彼はイエス・キリストを信じる者として洗礼へと導かれます。エルサレムでの礼拝の帰りということから、彼はユダヤ教に改宗し

た異邦人であったのかもしれない。

フィリポが馬車の外から声をかけた時、宦官は「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と答えます。宦官はフィリポを招いて読んでいた箇所を見せま

す。そして、そこに書かれていた「毛を刈る者の前で黙っている小羊」のような「彼」とは誰であるのかを知りたいと願います。読まれた内容からフィリポに渡された朗読箇所はイザヤ書の五三章と推測されます。

フィリポは「誰が、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ」と読み終えています。一国の女王の宦官として仕える人生を選び、彼女の全財産を管理するほど絶大な権威と信頼を得た彼にとって、この言葉はどのように響いていた

のでしょうか。この続きに「彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは彼の手によって成し遂げられる」とあります。「彼」の命は地上から取り去られ、しかし、その子孫(原語では「種」とも)は続く。普通に読んで不思議なことはないかもしれませんが、彼は宦官であり、子孫を残すことがない存在です。彼の築いてきた地位も名誉も、受け継ぐ者がいない中で、このイザヤ書の預言は、自らの力は無くとも、主のみ業を通して後の世代につながっていくものがあるかもしれないという希望の光だったのかもしれない。

「彼」のあゆんだ道を自分もたどりたい、そう願う中で、フィリポがこの場に遣わされました。フィリポは主イエスについての福音を告げ知らせ、宦官は洗礼を受けます。その後、彼はフィリポ(手引きをしてくれる人)がおらずとも喜びに溢れて旅を続けました。

このエピソードの始めに、フィリポが遣わされる道について一言「そこは寂しい(荒野)

道である」と書かれています。一方、「ガザ」という地名は「宝」「富」といった意味に由来します。そこに彼の歩む道の矛盾を思わせる響きが感じられます。富に向かってはいる、しかしながら寂しい道を行っていた宦官はフィリポに出会い、主の道を確信して、喜びに溢れた旅を続けるのです。

圧倒的な武力によって攻められていたガザ地区は「天井のない監獄」と呼ばれながらも、現在約二〇〇万人(私が住む札幌の人口とほぼ同じ)が暮らしています。地中海に面した美しいビーチや日常を楽しむ普通の人々がそこに暮らしています。富や権利に囚われた争いが続く限り、私たちが見る「エルサレムからガザへ下る道」は、命をつむがない「荒野」のままです。

フィリポのようにこの道を喜びに溢れた道へと導くために一人でも多くの寄り添う人が神の恵みにより与えられますように。



―心の窓をひらく―

福音と私(二八〇)

―今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか―



函館聖ヨハネ教会信徒

ミカエル 米田

清



「私の好きな聖句」

だから、こう祈りなさい。

(マタイ六章九節)

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。

(マタイ七章七節)

太平洋戦争が開戦される一年前一九四〇年函館で生まれ、少年の時からスポーツに明け暮れし、スポーツに携わる事を生活の糧にしたいと上京。大学で激しい練習に励むも腰に重傷を負い、医師から



運動禁止の宣告が出されました。

今後の設計は、白紙に戻され、自暴自棄になりましたが、心機一転趣味だった業を磨き、企業に属さず自立して、一生を東京で暮らす覚悟をしました。生涯無宗教で居ようと思っていました。二十数年前、高齢な母を見舞い帰省する度に、母と当時の司祭様方々の勧めで信徒となる決意をしました。東京に住みながら、函館聖ヨハネ教会で洗礼を受け、日曜礼拝は、都内の教会に出席していました。そこから二年後、再び母の要望で次男の私が母と同居する事になり、生活設計の変更を余儀なくされ、至らずとも母の最期を看取る事が出来ました。

「信仰とは、心の在り方を熟成させる事」と聞いてはいても、なかなか答えは見つからず信徒失格かと、暫く深く考える事を止めていました。信徒になり、一〇年過ぎた頃、東京の友人を訪ね電車に向かう際、中学生らしき三人が、嫌がる一人を追いかけ、私の席の前まで逃げて来た彼を脅し続けました。私は、「金銭要求」と確信しましたが、七〇近い老いた私は、逆上されたらどうするか、又は、見て見ぬ振りをするか等と迷い、「主よ、私はどうしたら良いですか」と問い掛けてしまいました。答えは聞こえませんが、少年達の中に割って入り、「弱い者いじめは、止めなさい」と一喝。少年達は、次の駅で降りてしまいましたが、脅された彼が気になり、旧友と会っても楽しく時間を過ごす事が出来ませんでした。

今から三年前、週三日人工透析を受けるようになり、体調不良の日々が続き、礼拝も休み勝ちになってしまいました。しかし、二年前の二月二四日ロシアがウクライナに侵攻。私の一番古い記憶は、本土攻撃が激しくなり日高、浦河町のニチレイの製氷工場が狙われ、空襲や艦砲射撃が時々有り、寝る時には最初に着る衣類を畳み、上から順に重ね、防空頭巾と一緒に枕元に置く事です。空襲警報のサイレンが鳴ると急いで着替え、防空壕に逃げ込んだその恐怖は記憶から消える事は無く、ウクライナの一般人や子ども達の悲惨な様子がテレビに映し出され、私の幼い時の記憶と重なり、怒りと悲しみで胸が痛くなり涙が出ました。一日も早く停戦され平穏な日々が訪れますようにと祈る事しか出来ず、教会へ出向きました。一人家で祈るより体調不良でも教会に出向き祈る事が、祈りへの充実感が得られたからです。

信仰するとは、一般の稽古

事と同じく終点は無く、常に通過点で有って継続させる事が大切なのでしょう。世界の各地で紛争や災害が多発し、それらで苦しみ悲しむ人々への慈愛を以て祈り続ける事は、必須で止める事は出来ません。

尊敬するも親しくさせて頂いた藤井司祭が余命三カ月と知り、「長く生きて欲しい」等、祈りと共に病状が気になり、暑さの中、礼拝に出席出来た事、亡くなる前夜話し合う機会を与えてくれた事、全て神の業と感謝しか有りません。私が祈ったから即、物事が解決されるとは思っていませんが「祈る」神に問い掛け、感謝する事。これらは、「心の在り方」を熟成させる要素であり、欠かせない心の栄養源なのだと思います。

継続は力、主に感謝。



常置委員会報告

第六回 四月一五日

《協議事項》

一、教区会追加議案として書面での回答を求めた教区審判廷審判員の選出について可決

を確認した。

二、岩見沢聖十字幼稚園のチャプレン代行を、越山健蔵司祭に依頼することとした。

三、聖職志願の際に提出する添付書類に健康診断書の提出を求めないこととした。

四、桑山隆司祭著の「美しい捧げもの」の売上金を、教区の災害ボランティア派遣の資金として教区に受け入れることとした。

五、能登半島地震の災害支援ボランティアに対して、教区より交通費全額を補助することとした。

六、五月一九日の主日礼拝信施を、教区の日献金として捧げることとした。目的は海外宣教のため。

七、さつぽろレインボープライド二〇二四への協賛依頼について承認し、協賛金を支出することとした。



主教室から

北海道教区は今年、英国教会福音宣教協会(CMS)派遣の宣教師ウォルター・デニング司祭が一八七四年五月一六日に函館に上陸し、福音宣教を開始してから一五〇年の記念の年を迎えています。過去の貴重な歩みに学び、今を感謝し、将来への方向を見出すためのさまざまなプログラムが、今年から来年に向けて用意されています。

毎号教区報で宣教一五〇年実行委員長から案内されているように、すでに小樽聖公会、釧路聖パウロ教会での黙想会、また記念聖歌「ヒリカ・レラ・モシリ」制作、連続講座「アイヌとキリスト教」(五回、北

海道大学 アイヌ・先住民研究センター共催)、北海道教区宣教協議会に向けての各教会・伝道所へのアンケート、「福音とわたし」(教区報「北海乃光」より抜粋)刊行などが行われていま

す。今後も七月一五日の宣教一五〇年記念礼拝やジョン・バチラー司祭の足跡を迎えるパネル展(平取町立二風谷アイヌ文化博物館共催)、各教会・伝道所の歩みを振り返る資料刊行、一〇月一四日には北海道教区宣教協議会も行われます。

詳細は、北海道教区HP宣教一五〇年特設ページをご覧ください。

主の導きによって北の大地で呼び集められた、宣教師を含めた教役者また信徒のおびただしい数の出会いや別れ、喜びや感謝、痛み

や悲しみの物語や出来事の積み重ねが北海道教区の一五〇年の歴史です。わたしたちはまずその物語や出来事に耳を傾けます。さらにその物語をよやく語る小さな声や他者からの問いかけに、一層耳を傾けます。主がきくとそうしてくださっているからです。そこから見えてくる北海道教区の等身大の姿を皆さんで再度見つめ直します。そしてすべてを神にささげ、神を賛美します。その営みを通してこそ、新しい歩みが始まると信じているからです。

どうぞ皆さんもそれぞれの祈りやプログラムに積極的にご参加ください。これからの歩みも皆さんと一緒に織りなしていきます。

主教 マツシレイス 笹森 田鶴

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

六月二日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

どなたでもご参加ください。

司 祭 渡 邊 英 治

一 九 八 三 年 六 月 一 四 日

伝道師 元 城 佐吉郎

一 九 二 四 年 六 月 二 八 日

執 事 本 田 憲 之

一 九 一 八 年 六 月 三 〇 日

歴史の窓2024(6) 釧路英和女学校のつと

CMSの北海道宣教は開始から一三年、一八八七(明治二〇)年日本聖公会創立によって北海道地方部となり、函館を中心に札幌、小樽、釧路の四伝道区が定められた。釧路では一八九一年に春採アイヌ学校を開設。その二年前、日本人を対象に女子中等学校「釧路英和学校」を開設(両校ともミス・ペインが校長)、入学児童九名の一人が高祖母という高木雛さんから教区に問合せがあり、当時の集合写真を見せていただいた。

「明治二二年六月、一二歳、高木きく」と裏書があり写真中央にミス・ペイン校長と並んで写っている。裏書から開校年に撮影されたものと判明。きくさんはその後一九一〇年、葉山で菊水亭を創業、現在も営業中とのこと。先日、雛さんから集合写真にデジタル彩色を施したファイルをいただいた。当時の生活をj知る手がかりを探しておられ、現在歴史で調査中である。



牧者の面影

―ステパノ齊藤昭一司祭を偲ぶ―



司祭 ミカエル 広谷 和文

齊藤昭一先生が仙台において逝去されたという知らせをいただきました。九七歳というご高齢のゆえ、いつかそのような知らせがあることを予期しながらも、大変淋しい思いを禁じることができません。思い出の一端を記して先生を偲び、魂の平安を祈りたいと思います。

六二年前のことです。室蘭のいつも通る教会の前に、「英語を指導します」という貼り紙が出ていました。月謝が格安であったのと当時英語塾など珍しかったこともあって、ちょうど良いと思いついて通うことにしたのです。教えていた

は室蘭大谷高校の先生でしたが、学校の都合などで急に休みになることもありましたが、その時、代わりに教会の牧師さんが教えてくれたのです。その牧師が齊藤先生でした。勉強が終わると、お楽しみに卓球台を組み立てて、相手もしてくれました。

親しくなったころ、「聖書研究会に来ませんか」と誘われて行ってみると、出席者は私一人でした。開いた頁は、忘れないルカによる福音書五章一節から一一節まで。先生のあまりにも生真面目な話しぶりに、これは真剣に聞かなければ悪いな、と感じたことを思い出します。ちょうど科学的な世界観に目覚めたばかりの私には、どれもこれも疑問だらけ。考えれば考えるほどわからなくなるのです。

学び初めて三カ月ほどたった時、思い切つて「先生は、どうして神さまを信じるようになったのですか」と聞いてみました。先生が答えて言われるには、昔から遠い景色を見るのが好きだった。役所に勤め始めたころ、目の疲れを癒すため、よく野原に行つて遠くを見るのがあった。すると、その向こうの、さらに向こうに、何があるのだろうか、と想像を膨らましていくうちに、神さまがおられるような気がしてきてね。それを聞いて、もしかすると私にも信じられるかもしれないと感じたのでした。そして先生から教理問答を学んで、翌年のクリスマスに洗礼を受けたのです。

当時、先生は有珠聖公会の管理もされていて、ひと月に一度、有珠に通つておられました。汽車に乗つて、有珠の教会に連れて行つてもらつたことがあります。ちょうどバチラー八重子さんが亡くなられた翌年のことで、教会にはまだ八重子さんの記憶が息づいていました。礼拝後のひと時、そこで聞かされた話の数々が、大変貴重なものであったと今更ながらに思い返されます。そして、教会からの帰り道、両側に草の生い茂る小径を、黙々と歩いていた齊藤司祭の姿がよみがえってくるのです。先を行く若い牧者の後ろ姿でした。

齊藤昭一司祭の思い出

函館聖ヨハネ教会
ヤコブ 志賀 直信

齊藤司祭は、一九九八年四月～二〇〇三年三月の五年間函館で司牧してくださいました。着任早々、教会報「花みずき」が誕生したのは、信徒の交わりを深めようとの司祭の熱い気持ちが進められていました。礼拝前にベストリーで、司祭はエンヤのCDを買つてとても気に入っていること、日曜日の夕方は「笑点」を楽しみにしていること、私が風邪気味で鼻詰まりしているとドクダミの葉をもんで鼻に詰めると良く効くこと等々話してくださり二人だけの楽しいひとときでした。

ある受苦日礼拝のあと、黙して帰らなければいけないところ、有志で集会室の大掃除をしていると司祭が顔を真っ赤にして叱られたことを思い出します。ご生前の心温まるご指導に深く感謝致します。

司祭 ステパノ 齊藤昭一師
【ご略歴】
一九二七年一月三〇日生まれ
一九四七年四月六日 網走聖ペテロ教会にて林稔司祭より受洗

受洗

同年七月八日 同教会にて前

川眞二郎主教より受按

一九五三年 松蔭短大卒業

一九五四年 執事接手

一九五五年 司祭接手

一九五八年一月二日室蘭

聖マタイ教会にて勝又君江さんと結婚

一九九七年 定年退職

二〇二四年三月一四日 逝去

【牧会歴任地】

平取聖公会

室蘭聖マタイ教会

網走聖ペテロ教会・愛香幼稚園園長

小樽聖公会

旭川聖マルコ教会・旭川頌栄保育園園長

釧路聖パウロ教会・厚岸聖

オーガスチン教会管理

釧路聖パウロ教会並びに厚岸

聖オーガスチン教会囑託

函館聖ヨハネ教会並びに今金

インマヌエル教会囑託

その他教区婦人会チャプレン

宣教一五〇年実行委員会報告 (14)

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。いよいよ記念礼拝まであと二カ月となりました。

黙想会は第二回が終了し、第三回が間もなく苦小牧で六月一日(土)に開かれます。先月、第四回は留萌で九月七日(土)とお伝えしましたが八月三十一日(土)に変更になりました。黙想指導は木村司祭です。第五回は一〇月五日(土)に網走で、飯野司祭の指導で行われる予定です。

次に「連続講座『アイヌとキリスト教』」がいよいよ始まりました。第二回が六月七日(金)、第三回が七月二三日(火)、第四回が九月九日(月)、第五回が一〇月一日(金)

に行われます。詳しくは各教会にあるチラシ

シと申込書をご覧ください。オンラインでの参加も可能です。

また「北海道教区宣教協議会」が第一回は一〇月十四日(月)に、第二回は来年の四月二十九日(火)に行われます。そのために各教会にアンケートを送らせていただきました。この一二年で教会に起こったことを聞きあいながら、これからの教会について考えていく予定です。お祈りのうちに覚えてくださったらと思います。

また、宣教一五〇年記念礼拝は七月一日(月)一〇時半からです。祝会は一三時一五分からクリスマスチャンセンターの予定です。参加の方は早めの宿の確保をお願いいたします。

今後多く多くの企画をお知らせしていきます。お知らせを楽しみにお待ちください。ではまた来月。



第六回 東北教区 アイリーン 坂水かよ

「チーム北国」二年目の今年は、四つのセクションが、本格的に動き出しました。

一月の全体ミーティングの際に大町信也司祭から、各セクションへの要望事項として次のことが挙げられました。「宣教協働」は信徒を入れた協働プログラムの検討と実施を。「広報」は信徒への周知を検討し実施を。「組織」は各委員会やグループ同士の交流を図っていくことを。「財政」は既に勘定科目を擦り合わせるプロセスに入っているので今後も継続を。これを受けて、今年度の各セクションのロードマップを基に実践に

向けて計画を立て取り組んでいます。双方の「同じ・似ている・違う」に出会い、それぞれが既に与えられている恵みを共有していくことの喜びを感じながらの作業です。

また、両教区の宣教協働に向けての計画が整いました。

◇六月三〇日北海道教区「出会いと交わりの日」に東北から李贊熙司祭が、函館聖ヨハネ教会へ。交換として青森聖アンデレ教会へ上平更司祭がそれぞれ派遣されます。

◇七月一日の北海道教区宣教一五〇周年記念礼拝へ、東北教区から、チーム北国のメンバーが出席の予定です。

◇「大館の物語を聴く会」を六月九日の主日礼拝後に、オンラインで両教区を結び開催します。

◇東北・北海道両教区の宣教協働の「絵本」制作について、東京教区の榎谷雪さんの協力をいただき、一〇月頃の完成を目指します。楽しみです。

これからの活動報告や教区間の交流の様子を皆様に沢山お伝えできればと思います。

室根聖ナタナエル伝道所

岩手県一戸市にある名峰室根山麓に立つ室根聖ナタナエル伝道所は、一九六〇年一月に現礼拝堂が聖別されて今年で六四年を迎えます。かつては、立教大学BSAメンバーが室根の地で奉仕活動をしてきたり、東日本大震災発生時にはボランティアの皆さんの拠点として用いられたりしてきました。長い間定住教役者はおらず、地元

の信徒の方を中心に教会を守ってきたのですが、現在は室根在住の信徒がいなくなり、東北教区の研修施設として用いることを教区会で決議し、新たな宣教活動を模索しています。





▽岩見沢聖十字教会

純白の大地美しくおごそかに礼拝堂に北海道教区宣教一五〇年記念聖歌ピリカ・レラ・モシリの歌声が響く。四月から練習を始めました。

九日、入園式。越山健蔵司祭が奉仕。お昼は職員と楽しくお弁当を食べましたよ。

二〇日、石川美千枝姉が召されて一年。栗山町のご自宅で偲ぶ会が行なわれました。御国での再会を期待します。

二一日、横山明光司祭司式による聖餐式。礼拝後、ご夫妻を囲んで愛餐会が行なわれました。いつも元気な司祭主に在る交わりは楽しいです。

▽旭川聖マルコ教会

急に暖かくなったり、寒さ

が戻ったり、季節の忙しい新年度となりました。

七日は教会委員会。欠席者多めでコンパクトに行いました。一四日は月に一度のマルコ食堂。カレーのにおいのする中での礼拝がなんだか懐かしいこの頃です。二一日礼拝終了後に園庭遊具の冬囲いシートをはずし、二八日はその

園庭の桜が満開になる中、久しぶりに、み言葉の礼拝をおこないました。五月のお花見予定の日まで、遅咲き組が残っていますように。宣教一五〇年の聖歌を礼拝前後に流しています。少しづつ耳に馴染んできた感じ。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

早いもので復活祭からは一カ月が経ってしまいました。釧路での今年の復活祭は？

釧路の三月三二日は雨で雪解けが一気に進行。吉野司祭はマルコによる福音書「イエスの復活」を踏まえて『日々の生活でも「恐れ」を越えつつ、イエスを伝え、それぞれ

の物語を紡いでいきましょう』と説いてくださいました。

礼拝後、コロナ禍以来の久しぶりの昼食会。メニューは「おにぎり」持ち寄りの「豚汁」「ザンギ」「ポテトサラダ」加えて「デザートゼリー」「マドレーヌ」に「コーヒー」及び「お菓子」と豪華絢爛。二〇人以上の信徒が参加。賑やかで楽しいひと時でした。

一四日には京都から釧路に移住された新しい信徒の御夫妻がお仲間にも。また去年移住の新しいお仲間も。今年は嬉しい春になりました。

二八日の復活節第四主日は笹森主教の四回目の主教巡回。準備万端ワクワクしています。

▽今金インマヌエル教会

四月九日、せたな町の山本幸子さんが逝去されました。教会とは昨年よりのご縁でしたが残念です。四月一四日笹森主教巡錫日。イースター礼拝と種の祝福をしていただき

今年も今金の春の準備が始まりました。礼拝後はお弁当とご要望の八杯汁での歓談。二八日に司式をしていただく

予定の横山司祭が礼拝後今金の教会にお泊まりする話題に皆でガヤガヤ。当日の礼拝は三名出席。世の中一〇連休、ホテルは三倍の料金。お布団を用意しご長男の光紀さん、弥生さんと共に宿泊されました。

七日、広谷司祭の司式説教で聖餐式をおささげしました。一四日は信徒によるみ言葉の礼拝。二一日は大友司祭による司式とメッセージで聖餐式をおささげし、二八日は越山司祭の司式説教で聖餐式をおささげしました。四月は小樽聖公会にゆかりのある三名の司祭さまと聖餐式をおささげすることができ、また楽しい交わりの時間を持つことができました。今月もたくさんの方の皆さんのお支えで礼拝を守れたこと感謝です。

▽小樽聖公会

暖かい日が続いた今春は、例年より桜の開花が早く、老朽化した教会の花壇の枠も新しくなりました。

一〇日に幼稚園の入園式が行われ、新たに二九名の園児を迎えました。神様のみ守りがありますように。

▽帯広聖公会

松井司祭とご結婚される、野口環姉のお祝いと送別の会が二八日に開かれました。食卓を囲みながら、共に喜びを分かち合う時が与えられたことに感謝です。お二人に神様の豊かな祝福がありますように祈りいたします。ハレルヤ!

四月一日、半年ぶりに車での稚内訪問。北へ帰る白鳥の姿を見ながら、こちらも北上。稚内市の大沼に寄ると、まだ白鳥は数えるほどでしたが、二週間後のニュースでは湖面を覆うような数になっていました。ここで栄養を補給して海を渡るのでしょうか。

私たちも少人数ながら、聖餐式で神様の栄養をたっぷりいただく時を持ちました。建物はかなり傷みが進んで来ましたが、何とか最低限の維持ができるように祈っています。

▽苫小牧聖ルカ教会

振り返ると積雪も少なく、

暖かい日が続いたせい、か雪解けも早かった。信徒の手が入った庭の土は黒く光り新たな呼吸を始めた。

日々色を濃くし、まもなく開花を迎える礼拝堂前の桜の木も、その時には内に蓄えられた力を美しさに変えて薫りを振りまくのだろう。

五月二日には松井司祭と野口環姉の聖婚式が八角堂で行われる。新しい家族による最初の主日礼拝の五月五日には満開の桜が家族一人ひとりを含む込めに違いない。

▽札幌キリスト教会

春は出会いの季節。北大キャンパスに学生が戻り、四月一七日から「留学生サポーター」が開始されました。毎週水曜日の正午〜一三時、ランチ提供のほか留学生の様々な必要のため奉仕する働きです。各グループの活動も活発に進められています。オリープ会は畑をもう一枚増やすとのこと、サツマイモの収穫に期待。

宣教一五〇年記念行事の準備もいよいよ本格化します。連続講演会「アイヌとキリス

ト教」の第一回(五月一八日)、七月一〇日からの「ジョン・バチラーの足あと」展などに向けて、館内清掃に励みます。

▽札幌聖ミカエル教会

新年度直前にイースターの祝会があったためか、進級、就職組は一足先にお祝いを終えて新しい場所での生活を始めている様子。新聖歌も耳慣れてきて、来月から毎週の礼拝中に用いられる予定。より歌に親しんでいきたい。二八日は春の大掃除を実施。草花も芽を出し始め、園庭の桜のつぼみが開きかけています。

八日より進級したこどもたちが登園開始。一〇日より新入園児たちも一緒に新しい一年を元気にスタート。五日、今年度の復活日にご夫婦で受洗された和田勝利さんがご逝去されました。魂の平安をお祈りします。

▽新札幌聖ニコラス教会

四月から管理牧師笹森主教のもと阿部芳克司祭が囑託として着任、教会近くのご自宅から通勤。就任前日イースターの案内に卵と手作りおこしを添え周辺を廻り、懐かし

い地域の方々に暖かく迎えられる、復活節が始まりました。これまで第二主日は三浦執事、第三主日は松井司祭が礼拝を守ってください感謝です。松井司祭、祝ご聖婚。牧師館は空家で静かですが、教会の掲示板に続き尖塔の十字架の照明も復活し、夜空にくっきりと映し出されています。み言葉の礼拝は「アイヌ神謡集」序の朗読で分ちあいの時を持ちました。主に感謝。

▽聖マーガレット教会

四月七日復活後第二主日、二ヶ月振りに管理牧師笹森主教様を迎え礼拝と幼児誕生・新入学児童の祝福式を行いました。午後から幽館ゆうかんさんによる琵琶の演奏会。約七〇名の方々が幻想的な演奏に聞き入りました。

毎月第二主日の礼拝の勧話を信徒の奉仕で行う事となり、四月は佐藤さつき姉でした。礼拝後、まだコロナ禍の名残で、ささやかなお茶会が続いています。

最近、新しい方が教会を訪ねて来るようになり、この交わりが長く続きます様祈って

います。教会は、再来年創立七〇周年。そのプログラムに向け少しずつ歩き始めました。

▽平取聖公会

本年は北海道教区一五〇周年で多くの講演会や展示会が予定されており、記念誌の準備も進んでいるようです。聖公会の北海道宣教の研究者である田辺陽子氏が本年二月に「英国人宣教師ウォルター・デニングとCMS関連資料」(明治初期のアイヌ伝道に関する研究事業―公益財団法人アイヌ民族文化財団助成)を刊行されました。デニング師が函館に一八七四年(明治七)に派遣されてからCMSを辞任して東京に出るまでの、一〇年間の報告と書簡を抜粋した貴重な研究です。

▽函館聖ヨハネ教会

四月にアイヌ財団が行っている「伝承者育成事業」の皆さんが当教会を訪問しました。一四日午後、聖堂コンサートとして大阪フィル首席奏者によるチェロコンサート実施。チェリストでもあった藤

井八郎司祭に捧げるひとときを一三〇名の方々と過ごす。アンコールには藤井先生愛用の楽器によるバッハの無伴奏チェロ組曲が聖堂に響いた。一同涙。

二二日、協働司祭として松井司祭を婚約者の方とともにお迎えする。婚約者の野口環さんは当教会出身の方。喜びの笑顔が聖堂に満ちた。本当におめでとう。

二六日、小林久子さんご自宅にて上平司祭より受洗。教名はミリアム。新しい家族を迎えた。

GW前からオープンチャートポランテア再開。国内外より訪れる多くの来訪者の旅路の安全を祈る。教会の庭、春の花満開。

▽網走聖ペテロ教会

四月二七日、網走桜開花。教会花壇のチューリップも咲き出し、二八日主日のお花で捧げる。この四月から飯野司祭の紋別・北見・網走でのお働き予定変更で、網走は第一と第四主日が聖餐式に。それに伴いことばの礼拝後のザカリヤ会輪読会は、第二主

日に変更し継続。みことばの礼拝後やペテロの会でも「ピリカ・レラ・モシリ」を、良い歌ねえと練習。二九日の鉤路聖パウロ教会黙想会に飯野司祭と和田さん参加。三〇日に飯野司祭の第V詩集が、ポエムピースから発行。

▽有珠聖公会

四月一四日、復活日の一週間後の日曜日、主のイースターのお祝いの礼拝を捧げました。礼拝後、茶菓を囲んで楽しい時間を過ごしました。

その後、信徒たちで当日礼拝に出席になれなかった方々のお宅へイースターエッグをお配りし、祈りを共にしました。四月から一〇月まで、毎週土曜日の午前九時から午後四時までのバチラー夫妻記念室の開館が始まりました。教会が建つカムイタツコブの丘は春の花々に美しく彩られて訪問者を出迎えています。

▽留萌キリスト教会

復活節の留萌は、大雪に埋もれた大斎節とは別人の顔で笹森主教の巡回をお迎えしました。神様が持つておられる「人を見る目」についてのお

説教に励まされました。そして午後には古くなった物置の整理を手伝っていただきました。現在の教会員の体力で管理の手が届く範囲について考え、最適な教会の環境を整えていきたいです。

熱心な信徒たちは足腰に助けが必要なので、玄関に手すりを設置する計画です。生きがいである礼拝に、より安全に出席できますように。

▽深川聖二教会

四月三日保育園で復活祭を祝うため、高さ四〇センチ、直径三〇センチの大卵の中から生まれる贈物を園児と先生学童さんに教会から贈る。七日委員会。一〇日インフルエ

ンザが猛威をふるい保育園児をおそい半数はお休みの礼拝となる。天の神様にお祈りす。

二一日婦人会、管区事務所主事の金子登美江さんの「人身売買」の報告(管区報昨年二月号)を参考に学習す。感謝。

戦前戦中日本人は朝鮮人を強制労働に使役していたことと重ねて学ぶ。二八日下澤管理牧師礼拝司式・説教。いつも心あたたまる説教に主イエス

との交わりを与えられます。感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

四月から第三・第五主日の聖餐式となりました。二ヶ月に一度ダスキンさんが交換に来てくださるのですが、コロナで大変だった時、厳寒の冬、酷暑の夏などたくさん

の物語があります。二一日の聖餐式では「一人の羊飼」というテーマで「立ち位置が変わると全然違う景色が見えて来る」ことを黙想いたしました。

礼拝(祈禱文や説教など)をイヤホンで聴く方法が今考えられているのですが、詳しい方がいらしたら教えてください。

先日、町内会費を一年分納めてまいりました。

▽紋別聖マリヤ教会

今年は雪解けが早く、ゴールデンウィーク前に桜の開花があちこちで見られた紋別です。四月より飯野司祭が管理

牧師として紋別の礼拝・聖餐式に來られます。十数年ぶりにまた交わりの時が与えられる事に感謝です。九日、幼稚園の入園式。笹森主教様が理

事長として來られ大友崇新園長と共に参列し、新しい船出となりました。園庭の花たちも次々とつぼみが開いて祭壇に飾れるようになってきました。主に感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

教会の水道凍結の心配がなくなる季節となりました。教会に集まる回数が少ないので水関係の事は気になります。

四月一三日復活節第三主日、松井司祭來会、礼拝が守られました。少ない信徒で司祭説教が勿体ないです。四月一日、ヨブ記を読む集いが一四時からでした。四月二七日(土)司祭來会、聖餐式が行われました。松井司祭が五月二日結婚されます。今後家事の事は心配なく司祭の職務に専念できるように。テレビでは連日地球規模の異常現象が報じられていますが、終末が近いのでしょうか。

▽新冠聖フランシス教会

暖かい四月が続き桜の開花も例年より早くみられ、礼拝への道のりには、一時車を止め山桜のピンク色の濃淡に目

を奪われることもあります。そんな時に山裾で山菜を探して歩く人影を見ることもしばしば。

復活節第三主日、第五主日は内海司祭の司式、説教のうちには礼拝聖餐の恵みを与えられ感謝でした。

今まで教会のためにお世話くださった小竹国昭ご夫妻が四月を最後に札幌へ転居され、さみしくなりましたが、かの地での信仰生活にも、常に主にあつて聖徒の交わりを楽しむことができますよう、主の導きを心からお祈り致しております。

主に感謝。

